



代表取締役 石原 保志

恒産恒心

こうさんこうしん

安定した収入があれば人々は悪いことはしない

「安定した財産なり職業をもっていないと、安定した道徳心を保つことは難しい」というこの言葉。日々の仕事や暮らしの基盤を整えることこそが、安心と信頼を生み、より良い社会につながっていくと考えています。

Facebookでも
情報発信中!

Follow Us!



寒さ厳しい日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

2026年が始まり、早1ヶ月。今年、私たちが掲げるテーマは「恒産恒心」です。財務が安定してこそ心も安定し、良い判断ができる——そんな意味を持つ言葉ですが、私たちはそれを「お客様の心に寄り添うことで、事業の安定をつくる」と捉えています。

丙午の年は転機の年とも言われます。実際、高市内閣の動向や株価上昇など、世の中には明るい話題が増え、前に進もうとする空気を感じます。

一方で、環境が好転する時ほど、経営者の判断は難しくなるものです。勢いを取るのか、足元を固めるのか——迷いの中で舵を切る場面も多いでしょう。

だからこそ今、数字だけでなく、人の想いに目を向けることが大切です。お客様の声に耳を傾け、不安に寄り添い、一つひとつ事業を整えていく。その積み重ねが、揺るがない経営基盤を育てます。

本年も皆さまと伴走しながら、「恒産恒心」を実感できる一年をともにつくってまいります。

2025年秋 メンバーシップ報告

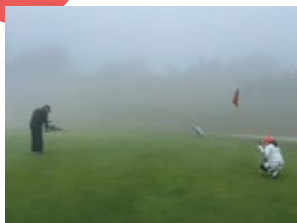
昨年のイベントやセミナーにご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。今年も交流と学びを楽しんでいただけるイベントを企画してまいります。どうぞお楽しみに!

これまでご参加が難しかった方も、ぜひ今年は一緒にしましょう。

10/22
(水)

ゴルフコンペ

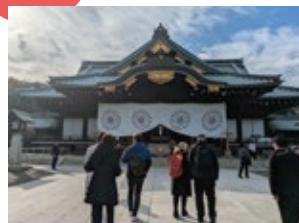
チェックメイトカントリークラブにて



当日は霧に包まれるあいにくのコンディションの中でのプレーとなりましたが、15名の皆さまにご参加いただきました。見事優勝を果たし松阪牛を獲得されたのは、長屋電工株式会社の塩沢社長。ニアピン賞も3つ獲得し、好調ぶりが光る結果となりました。本コンペは景品の充実ぶりでも好評をいただいております。次回も多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

11/12
(水)

靖国神社・遊就館・昭和館を めぐる学びと交流



戦後80年・昭和100年という節目にあたり、過去から現在へと続く日本の歩みをあらためて見つめ直す、実りある時間となりました。また、老舗「お多幸」での懇親会では、味覚を通して日本の歴史を感じる、和やかなひとときを過ごしました。



今年は
60年に
1度

2026年
ひのえうま



今年は、60年に一度巡ってくる「丙午（ひのえうま）」の年です。

干支は「十干（じっかん）」と「十二支（じゅうにし）」を組み合わせたもので、60年で一巡します。生まれた年の干支に戻ることを「還暦」と呼ぶのは、この仕組みに由来しています。

丙午とは

丙（ひのえ）：「火・太陽・情熱・勢い」を象徴

午（うま）：「活発さ・行動力・力強さ」を象徴

エネルギーが強く、変化や動きが起こりやすい年といわれています。

「丙午に生まれた女性は気性が激しく、夫の命を縮める」といった民間信仰や、火事が多い年だとか、様々な根拠のない俗説が語られてきました。

こうした迷信が世に広まったのは、歌舞伎や文楽の主人公として知られる「八百屋お七」がきっかけと言われています。

恋する男性に会いたい一心で放火事件を引き起こし、処刑されたと伝えられるお七は、一説によると1666年の丙午生まれ。江戸時代、お七の悲劇が舞台上で上演され人気を博すと、お七に象徴されるような、気性の激しい丙午生まれの女性が戯作などに描かれるようになり、次第に迷信が流布していったといいます。

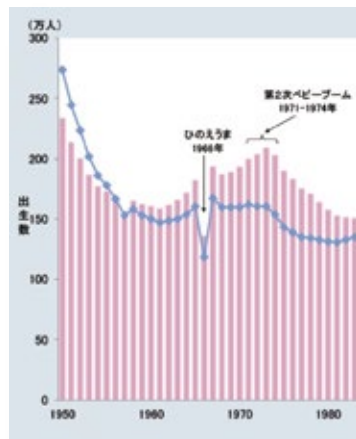
こうして江戸期から明治期にかけて、丙午の年に女兒をもうけないよう出産を控える風潮が広まりましたが、歴史上、産

み控えが最も顕著に現れたのが、1966年の「昭和の丙午」でした。

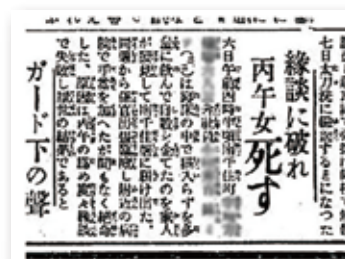
この年の出生数は、前年比25%減の136万974人。

統計を取り始めた明治以降で最低を記録しています。

この昭和の丙午における出生数激減の呼び水になったのは、明治の丙午（1906年）生まれの女性たちに降りかかった空前絶後の厄難が影響した、とも指摘されています。



グラフ引用：厚生労働省HP



引用：読売新聞オンライン

彼女たちが結婚適齢期を迎えた大正末期から昭和初期にかけては、丙午生まれを理由に結婚を断られたり、丙午生まれを苦にして自殺に追い込まれたりするケースが相次いだのです。

科学的根拠のない迷信が、個人の判断を超えて社会全体の行動にまで影響を及ぼしたこの出来事は、日本社会における特異な事例として、現在でも社会学や人口学の分野で語り継がれています。

情報があふれる現代において、私たちは何を信じ、どのように判断して行動しているのか——丙午の歴史は、そんな問いを私たちに静かに投げかけているのかもしれない。



知らない電話には出ちゃダメよ！

無言電話の正体？ — AI時代の“声”を狙う新しい詐欺



1月8日の日経新聞にX（旧ツイッター）のAI機能で生成した性的画像の被害が国内にも広がっている、というニュースが掲載されていました。

実は画像だけでなく、音声データを悪用した詐欺被害も出始めていることをご存知でしょうか。

電話がかかってくるけど、相手は無言。「もしもし？どなたですか」などと話すと切れてしまう。

でもこの数語からあなたの声が生成され、なりすまして、関係者に詐欺電話が…。

AIの進化により、オレオレ詐欺の高度版が簡単に作成できる現代。知らない電話に出るリスクを、社内でもしっかり共有しておきたいところです。いつの時代も、セキュリティリスクで一番多いのは「人的うっかり」です。

「ちょっとだけなら大丈夫」と思ったその一言が、AIにとっては十分な材料になる時代です。

自分と周りの人を守るための「出ない勇気」も、これからの時代に求められる大切なリテラシーなのかもしれませんね。

トライランニングだより

毎年恒例の長谷寺へ初詣。1年の無事と発展を祈願してました。寒い日でしたが、梅の蕾がほころび始め、季節の移ろいを教えてくれているようでした。趣のある松原庵では、塩漬胡椒入りのジンソーダという珍しい一杯に会い、これがまた美味でした！

